

御殿場

# 十字の園

(題字 鈴木生三)

発行／総合福祉施設  
御殿場十字の園  
施設長 高橋雅昭  
〒412-0023 御殿場市深沢1465の1  
TEL 0550-83-1999  
FAX 0550-82-5189  
<http://www.jyuji.ne.jp>  
e-mail:info@g.jyuji.or.jp

2023  
No.230

印刷／大和印刷株式会社

(聖句)喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)



2023年元旦 新年挨拶会

あたらしき年のはじめは楽しかりわがたましひを養ひゆかむ (斎藤茂吉)

(年のはじめは楽しいものです。昨年の疲れた心を癒やして今年も元気に過ごしていきましょう。)

イルド

理事長 鈴木 淳司

「普通って？」

人にもしなさい。  
人にもしなさい。人にもしなさい。

(ルカによる福音書六章三十一節)

私の話で恐縮ですが、父が、「家に帰る」と言い出して、どうして良いか困った姉が電話してきた時の事。姉は「普通そんなこと言わないじゃん」と随分混乱しているようで、「そうだね、いつ頃の家を思い出して言っているんだろかね」と、姉と昔住んでいた家の思い出話をする。混乱している気持ちを整えようと姉は会話の中で普通を繰り返す。

姉の普通は、大方の人が聞いて頷けるが、父の心にある普通は、その人を知らないと言えない日記の様だ。

自分の普通で人を観ると、そこから外れる人にイライラすることがある。普通は微妙に色合いを異にし、千差万別。人に何かをする時、普通自分だったらこうしてほしいと、してもらいたい事を普通に考える。なんとも難しい。

# 二〇二三年度事業計画について

御殿場十字の園施設長 高橋 雅昭

二〇二三年度が始まりました。二〇二二年度は終わり、新年度を迎えるに当たり新たな気持ちで新しいことに取り組みたいと思います。二〇二二年度は新型コロナウイルスの集団感染では利用者の方やご家族にご心配をおかけしてしまいました。そのような中でも励ましの言葉や温かい言葉を多くいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。

新型コロナウイルスも五類へと移行となる予定で、社会もコロナ禍前の活動が戻ってきているのを感じています。医療・介護の業界でも今後コロナとの関わり方が変化してくると思いますが利用者の方の安全・安心は最優先にしつつ柔軟に対応していきたいと思えます。また、今年度こそはご家族との関わり、地域との関わりを以前のように活発にできればと願っております。

## 二〇二三年度事業計画

### 1. 運営目標

- ① 理念や行動規範を意識し、一人一人を大切にその人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。
- ② 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあ

い、やりがいを持って働くことができる職場を創る。

### 2. 二〇二三年度運営方針・運営計画

① 行動規範の読み合わせを継続的に行うと共に理念教育委員会を中心に理念教育を行い、理念の浸透を図る。また、ユマニチュードケアを推進しその人らしい生活を支援する。

② 組織体制・職員配置の見直し、採用活動を推し進め、認め合う職場づくりを行う。

③ ケアマネ等有資格者を増やす取り組みを行い、質の向上及び安定した事業運営を図る。マニュアルの作成を継続し完成、浸透を図る。さらに職員育成制度の充実を図る。

④ 法人本部と連携してICTのさらなる活用、ナースコールシステムの更新し業務の効率化、介護事故の削減を図り、利用者へのサービス向上を図る。

今年度も御殿場十字の園の聖句「喜ぶ人とともに喜び、泣く人と共に泣きなさい」を大切に事業運営を行っていきたいと思います。

# 私は世の終わりまで

日本基督教団御殿場教会 牧師 小林 隆史

「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」マタイによる福音書二十八章二十節より  
永遠の命の与え手である神様が共にいてくださることは、いずれば死すべき人間にとつて安心要素ですが、同時に不安要素でもあります。聖書の神は人間が犯すどんなに小さな罪をも見逃さない正義の神でもあるからです。そして誰でも罪を犯すなら、罪の報酬として死と滅びを受け取らなければなりません。

その不安は神の民として神様から選ばれたイスラエルの人々にとつても同じでした。神様は古い時代には神殿で犠牲をささげる儀式を通して、イスラエルの民に罪の贖いを与えてくださり、罪を帳消しにして下さっていました。しかしそれで人々が罪を犯さなくなつたか？という本質的にそのようなことはなく、人は罪を犯し続ける罪びとのままでした。それでも神の民に神殿での儀式が与えられたのは、人を罪から救う本当の贖い・贖い主が現れるための必要性や必然性を人間が悟るためでした。

現代においても、人間が罪を犯してしまう存在であることに変化は無いのですが、真の贖い主であるイエス・キリストに救われた者として歩み続けようとする人には、イエス様が世の終わりまで共にいてくださるとの約束が与えられています。この約束の御言葉に支えられて日々歩むこと・神様の恵みによって新しく変えられ続けることが人間に求められています。皆様の日々の歩みに主が伴ってくださいますようお祈りしております。

「大切なのは、新しく創造されることです。このような原理に従って生きていく人の上に、つまり、神のイスラエルの上に平和と憐みがあるように。」ガラテヤの信徒への手紙六章十五〜十六節より



## 新型コロナウイルスに関する報告



対応職員の皆さん  
配膳準備の合い間に



物品管理は重要です



感染症対策会議

BCP・マニュアル更新直後に  
夏に発生したクラスター後から  
感染症発生時BCP(事業継続計画)を更新し、施設内マニュアルを完成し、更なる感染へ備えていた矢先の十一月末に職員一名の感染が確認されました。  
「広まっていますように」との願いも虚しく陽性反応。その後二階から入居者十五名、感染発覚間際に対応していた職員が徐々に六名が陽性となりました。その後は三階職員一名が別ルートから感染、入居者六名の陽性。職員は更に二名陽性が確認されました。地域の感染拡大・異常なほどの感染力の強さを思い知らされた形となりました。



夏の対応とは違いBCP・マニュアル更新直後で物品も揃え準備万端であった事、職員たちの明るく冷静な対応、役割分担と円滑な連絡体制、毎日実施された感染症対策会議、迅速な情報共有や看護や栄養・他事業所のバックアップのおかげもあって十二月二十四日終息に至りました。  
御家族・関係者の皆様におきましては心配をおかけしたことをお詫びするとともに、ご協力・励ましやねぎらいを頂いた事を心から感謝申し上げます。

### 特別養護老人ホームのクラスター報告

施設課長 高木 直也

#### 報告と対応

一月十九日(コロナ陽性者発生)～  
二月一日(終息宣言)

入居者陽性五名 職員陽性三名

ゾーニングやガウンテクニクの仕方は研修などで学んでいたものの、実践経験がなく戸惑う中、課長や主任からレクチャーを受けひとつひとつ確認しながら対応にあたりました。コロナ陽性者発生初期の対応はシフト上においても難しく、それに加えウイルスの感染力の強さは容赦なく職員三名が陽性となりました。

グやガウンテクニクをきっちりを行い、また初動対応が肝心になる事を胸に刻み、少しの風邪症状でも、念の為コロナの可能性がある事を考えながら対応していきたいと思います。

今回、御殿場十字の園他事業所からの応援に助けられ、文字通り『互助』の大切さを理解することが出来ました。コロナ対応期間中、ご家族・関係者の皆様から暖かな言葉や支援の申し出を頂戴いたしましたことを、心から感謝いたします。

### 笑みの里(グループホーム)クラスター報告

笑みの里 高谷 繁

#### 今後生かせる反省点

再度新型コロナウイルス感染が疑われる状況にあった時には、今回のクラスターで学んだゾーニング



レッドゾーンに入る前に  
防護準備し入ります。



陽性者対応の職員の様子

## 家族介護教室を終えて

在宅課長 武藤 繁生

二〇二三年二月十八日土曜日に、第三回御殿場市家族介護教室を無事開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行により予定通り開催できるか心配されましたが、全日程多くの方に参加していただくことが出来ました。六月のこけら落とし「身近な人が介護状態になったら」に始まり、十月は「認知症の方の世界観」、そして二十二年研修のトリ「排泄介助の方法について」を課長の高木が講師を務めさせていただきました。今年度の研修を担った四名の講師の方々ありがとうございました。どの研修も定員に達しキャンセル待ちがでるほどで、市民のみなさんの介護に対する関心の高さを伺い知ることができました。

私どもは次年度も家族介護教室を予定しております。この教室が地域のみなさんの学びの場、交流の場になってくれれば幸いです。



## ケアハウス

### 近隣の清掃を

してきました。

勝又 加津子

冬も差し迫ってきた十一月初めにケアハウスのみなさんを誘って施設近隣の清掃に行ってきました。

道端のゴミは少ないのできれいだとはか  
り思っていました。が、垣根に潜り込んでい  
たり石や土に埋もれたものが意外と沢山  
あってトンガが大活躍して、三十分ほどで  
大きな袋にいっぱい集まりました。社会参  
加の一つとしてお願いしたのですが、肌寒  
い中急な依頼を快く引き受けて下さったみ  
なさんに感謝します。



## 内部研修を紹介します。

### 施設

#### 良いケアを目指す事が 虐待不適切防止

施設課長 高木 直也

二〇二二年十一月、フロアごと二回に分けて虐待防止研修を実施しました。コロナによって集合研修が難しい中でしたが、定期的に皆で立ち止まり自らのケア・チームのケアの状態を確認する時が必須です。

研修では私たちが目指す理念やケアを確認しつつ、実際の虐待のニュースの場面を視聴しました。職員は真剣に見ておりました。また不適切ケアに関する動画も視聴し、私を含め決して他人事ではない事を実感。その後グループワークで話し合い、自分たちはどうなのかを考え今後のケアにつなげられるように話し合いました。非常に真剣に盛り上がり、以前から学んできたユマニチュードケアの確認を行う時を持つことが出来ました。

ケアの質はこれで大丈夫という事はなく、ほんの少しの事で向上し、また悪くもなりません。自らの疲れやストレスと向き合いつつ大切な方々の介護にあたる職員の心身の健康、またチームの雰囲気、明るさも入居されている方々へのサービスの質にも直結すると思うので、力を合わせ楽しく良いケアを目指し、喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣き、みなさんに寄り添う介護の実践を育んでいきたいと思えます。



グループワークの様子

### 在宅

#### 人を育てる研修動画の活用

在宅課長 武藤 繁生

当法人のホームページをご覧になったことはありますか？教育・研修を開くところ書かれています。「人を育てる十字の園」。私たちは施設を利用する方々への支援は勿論のこと、職員の質向上にも力を入れていきます。接遇マナーからチームマネジメント上級編まで研修動画を準備しております。学び方は事業所判断として個人ワーク・職員会議で活用しております。一月からは管理者向けの研修動画も追加し職員全体のチームマネジメント力スキルアップ等の底上げを目的として取り組んでいます。

県内の幼稚園で虐待による逮捕者が出たという報道がありました。記憶にも新しいのではないかと思います。何故、虐待が起るのか。そうなる前に何か気づけなかったのか。同じ福祉に携わる私たちは憤りを感じています。日頃のチームのコミュニケーションや学ぶ場を大切にしながら、施設を利用する方々、御家族が安心して私たちが十字の園に任せていただけるよう職員の人財育成に努めてまいります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



## デイサービス

### デイサービスの日常

御殿場デイサービスセンター 勝俣和也

私たち御殿場デイサービスセンターでは様々なことを試していただき、新しい刺激として「楽しい」「おもしろい」を体験して、皆さんに「笑顔」を持ち帰っていただけることを心がけています。

華やかさに個性が出ますね。



フラワーアレンジメント制作中

どんなレベルの高いものを求められるので、探し出すのに苦労します。



脳トレも得意です

声をかけても答えにくれませんが、芸術家の域に達しています。



塗り絵に夢中

リクエストに応じますよ。



壁画制作もお任せください

## 非常用放送設備入れ替え

去年の七月二十六日、本館に落雷し非常放送設備が使えなくなりました。入居している方々が安全に避難できるよう欠かさず防災訓練等を行い、もしものときの対策は講じていますが、災害時に避難経路を的確に放送指示する事が出来ません。すでに交換部品の製造・供給が終了し修理不能。すぐに代替機器をお願いしましたが受注生産のため数ヶ月の期間を要しました。納入設置・何百もの配線を繋ぎ、何度も動作確認・テストを繰り返し設置完了となりました。活躍してくれることは少なければ少ない方が良いでしょう。非常時のときの設備だから。でももしものときには絶対に動いてくれるよう『現代の守り神』として居てもらいましょう。



## 消毒食器保管庫入れ替え

御殿場十字の園を建て替えた時もう二十三年ほど前の一九九九年。初代食器保管庫はその時に設置されたものでした。この二十三年間で交換していかった最後の機械です。どちらかという土地な役割のため存在を知らないという職員もいますが、厨房調理室内で最も大きく安全衛生上最も重要な機器の一つです。提供する料理も多彩になり食器の数も種類も増えました。そのため収納量が限界を迎えていたことと、老朽化による故障が度重なため、交換部品も無くなってきているため、給電設備を増強して最新の大型保管庫を二基置きました。大量に食器を収納したステンレス籠を四十二、二基で八十四納めて高温殺菌乾燥保管します。食の安全には不可欠な機器です。



## 苦情受付と対応

2022.8.27 ~ 2023.2.28

特別養護老人ホーム	2件
地域活動支援センター	1件
計	3件

## 2023.3.30：苦情解決第三者委員会開催予定

現時点で職員の接遇に関する苦情、車両運行に関する苦情があげられており、2023年3月30日に対策について会議を行う予定となっております。

今回開催予定の会議では、毎回参加している特養の職員だけでなく、他の部署の職員も参加する予定となっております。

より多角的な視野から対策を講じてサービスの質向上に努めてまいります。



## あとがき

御殿場は二月の十日に雪が降りました。翌日嘸家柳家花緑師匠（元落語協会会長・五代目柳家小さんのお孫さん。）が「僕昨日雪かきしていましたね。」と言っていました。そう花緑師匠は御殿場市に住んでいるのですね。「あらご近所様。あたしの勤め先からの富士山これです。」と御殿場十字の園職員駐車場から撮った富士山を見ていただく。「あーうちと同じ富士山。」とお互いになんとなく笑ってしまふ。富士山がそこに居てくれるのは当たり前。でもそれがやはり嬉しい。この機関誌もそんな存在になればと思います。つお手元におとげします。

(やまもと)

